

PM による研究開発プログラムの見直しについて

平成 29 年 3 月 23 日
革新的研究開発推進プログラム担当室

(ポイント)

革新的研究開発推進プログラム (ImPACT) の平成 28 年度の進捗管理として、全 16 名の PM を対象に、PM による研究開発プログラムの進捗状況及び研究費増額を含む研究開発プログラムの見直しの必要性について集中レビュー会にてヒアリングを行い、その後、原田 (香) PM に関するプログラムの見直しについては、内容の明確化が求められた。

3 月 16 日開催の有識者会議にて、研究費増額の見直しの要望があった原田 (香) PM の研究開発プログラムの見直し案をご審議いただき、見直し案を取りまとめたところ。本日は、原田 (香) PM に関する研究開発プログラムの見直し案の承認についてお諮りするもの。

1. 集中レビュー会の実施

ImPACT における研究開発プログラムの進捗管理については、「革新的研究開発推進プログラム運用基本方針取扱要領」(平成 26 年 2 月 27 日革新的研究開発推進会議)により、レビュー会にて PM からヒアリングを行うこととしている。全 16 名の PM を対象として、研究開発プログラムの進捗状況及びプログラムの見直し(平成 29 年度以降の研究費総額の見直しを含む)の必要性についてヒアリングを行う集中レビュー会を実施。

(開催状況)

開催日：平成 28 年 10 月 25 日、10 月 31 日、11 月 1 日、11 月 18 日、11 月 25 日、
12 月 12 日

出席者：有識者議員

外部有識者 (ImPACT アドバイザー (別紙)): PM のマネジメントや出口戦略等の観点から、有識者議員の判断の参考となるアドバイスを行う。

PM からの報告内容：

プログラムの進捗状況及び自己評価。プログラムの見直し及び研究費総額の変更を要望する場合は、その必要性についても説明。

2. 16 名の PM の研究開発プログラムの見直しについて

集中レビュー会でのヒアリングに基づき、ハイリスク・ハイインパクトな研究開発に取り組んでいるか、出口戦略 (産業や社会のあり方を変えるためのシナリオ)

は明確になっているかという視点を踏まえ、有識者議員と事務局がとりまとめた見直し案について、その後の進め方は以下の通り。

(1) 7 名の PM (伊藤 PM、野地 PM、佐野 PM、佐橋 PM、田所 PM、山川 PM、原田 (博) PM) について

各 PM に関する研究開発プログラムの見直し案を審議し、1 月 26 日及び 3 月 9 日開催の推進会議にて承認いただいた。

(2) 原田 (香) PM について

集中レビュー会では、有識者議員から、研究開発プログラムで実施する標準化に向けた取組やスケジュール及び、スマートアームの技術的優位性に関してより明確にするよう指摘を受けた。

3 月 16 日開催の有識者会議にて審議した原田 (香) PM による研究開発プログラムの見直し案について、本推進会議で承認いただく。

(3) 上記 8 名以外に研究費総額の増額を検討している PM について

プログラム見直しの必要性について引き続き有識者議員と検討を行い、今後、8 名の PM と同様に、審議いただく。

(5) 研究費総額の見直しを行わない PM について

集中レビュー会での指摘等を踏まえ、既定の研究費総額の範囲内で適宜研究開発プログラムの見直しを実施し、今後、有識者会議にて報告を行う。

以 上

外部有識者（ImPACT アドバイザー）一覧

氏名	ふりがな	所属・役職
秋永 広幸	あきなが ひろゆき	産業技術総合研究所 ナノエレクトロニクス研究部門 総括研究主幹
小川 紘一	おがわ こういち	東京大学政策ビジョン研究センター シニアリサーチャー
金出 武雄	かなで たけお	カーネギーメロン大学 ワイタカー記念 全学教授
菅 裕明	すが ひろあき	東京大学大学院 理学系研究科 教授
角南 篤	すなみ あつし	政策研究大学院大学 副学長・教授
平野 俊夫	ひらの としお	量子科学技術研究開発機構 理事長
松見 芳男	まつみ よしお	大阪大学ベンチャーキャピタル株式会社 代表取締役社長